



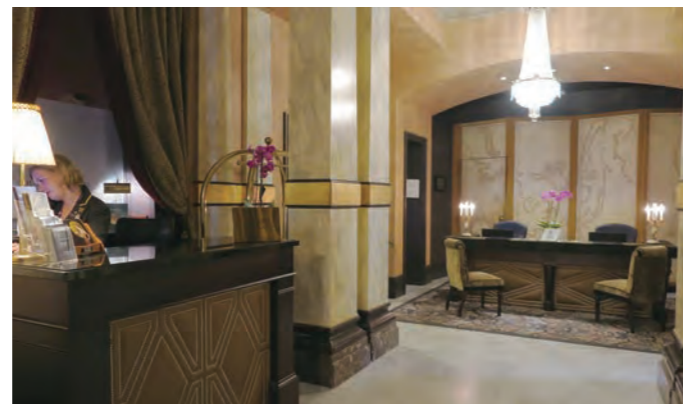
オランダの古都ハーグの緑豊かなランゲ・フォールハウト通りにクラシカルな姿で佇むホテルがある。その名はホテル デス インデス「Hotel Des Indes」。古くからハーグ屈指の名門ホテルとして歴史を築いてきた。元々はオランダ国王ウィリアム3世の財務官だった男爵の私邸として1858年に建てられ、その後81年にホテルに改修されている



館内の中心部にあるゴージャスなラウンジ「Des Indes Lounge」。著名なインテリアデザイナーのジャック・ガルシアによる大規模な改装を経て、気品ある19世紀の面影を色濃く継承している



ホテル デス インデス「Hotel Des Indes」の正面エントランス。ホテルは今までのラグジュアリー・コレクションとの運営契約を終了し、今年初頭にLHWに加盟している



館内奥にレセプションデスクがある。左手はコンシェルジュデスク



ラウンジ「Des Indes Lounge」の上部は吹き抜けになっており、円形の回廊が中二階に花を添えている



ラウンジ「Des Indes Lounge」から中二階へと結ぶ華麗なステアケース



筆者 **小原 康裕**
国際ホテルジャーナリスト

慶応義塾大学法学部法律学科卒。
1974年 Munich Re 入社。
2001年投資顧問会社原健設立、
代表取締役 CEO。
JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント
協会常務理事。
SKAL International Tokyo、
Professionnels du Tourisme 会員。
JARC、日本宿泊施設関連連合会
アドバイザーボードメンバー。

www.jhrca.com/worldhotel/?cat42
www.hoteresonline.com
<https://www.facebook.com/yasuhiro.obara.16>

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテリアが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままに撮ってきた写真を掲載する。

Hotel Des Indes, The Hague

オランダの古都ハーグの緑豊かなランゲ・フォールハウト通りにクラシカルな姿で佇むホテルがある。その名はホテル デス インデス「Hotel Des Indes」。古くからハーグ屈指の名門ホテルとして歴史を築いてきた。著名なインテリアデザイナーのジャック・ガルシアによる大規模な改装を経て、気品ある19世紀の面影を色濃く継承している。元々はオランダ国王ウィリアム3世の財務官だった男爵の私邸として1858年に建てられ、その後81年にホテルに改修されている。館内は古きよきヨーロッパの貴族的な

豪華さや荘厳さを備えている一方で、モダンな雰囲気にも感じられ、建物の歴史に敬意を払うデザインが見事に調和している。ホテルは以前よりスターウッド系列のラグジュアリー・コレクションの傘下にあったが、去年12月に運営契約を終了し、今年初頭にLHWに加盟している。

“Hotel Des Indes”という一風変わったホテル名は、直訳すると“インドのホテル”となる。当時オランダはインドネシアに「オランダ東インド会社」を1602年に設立。会社を名乗りながら実態は軍事や植民地経営までも担い、東南アジアの貿易権益を独占していた。その拠点となったのがバタビア（現在のジャカルタ）



ファインダイニング「Restaurant Des Indes」のエlegantな店内



東洋的な空気が漂う中二階のエレベーターホール



重厚なバーラウンジ「Des Indes Bar」



「Des Indes Bar」のバーカウンター



トップスイート「Presidential Suites」のリビングルーム。約75㎡の広さを持ち、歴史を感じさせる重厚感あふれるデザインレイアウトだ



館内は古き良きヨーロッパの貴族的な豪華さや荘厳さを備えている一方で、モダンな雰囲気にも感じられ、建物の歴史に敬意を払うデザインが見事に調和している



スパ施設「Des Indes Health Club & Spa」に「Jet Pool」を用意し、ジェット水流により本格的な泳ぎも可能とした



トップスイート「Presidential Suites」のベッドルーム。天井から下げられたベッドサイドの照明がユニークだ



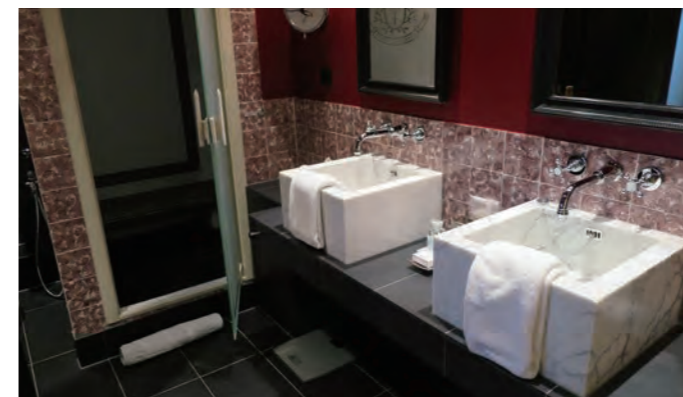
玄関ホワイエから望む「Presidential Suites」のリビングルーム

であり、当時あった歴史的コロニアルホテル「Hotel Des Indes」と同じ名称にすることで、東インド会社関連の旅行者やオランダ周辺諸国からの富裕層を呼び込む願いがあったと言われる。

ホテル デス インデスはスイートを含め全92室を擁し、館内は創業140年に迫る連綿とした歴史が息づいている。今回はトップスイートの「Presidential Suites」をご紹介します。約75㎡の広さを持ち、付帯した専用テラスからハーグの街並みを見渡せる。館内の中心部にゴージャスなラウンジ「Des Indes Lounge」があり、その奥にファインダイニング「Restaurant Des Indes」、隣接してバー「Des Indes Bar」と続いている。スパ施設「Des Indes

Health Club & Spa」は、欧州で評価が高い「Cinq Mondes」と提携している。スパ内には「Jet Pool」を用意し、ジェット水流により本格的な泳ぎも可能とした。

ホテル デス インデスの立地環境はすこぶる良い。すぐ近くには、フェルメールの「真珠の首飾りの少女」を所蔵する「マウリッツハイス美術館」、エッシャー独特のモチーフや不可思議な光景が描かれた「だまし絵」で有名な「エッシャー美術館」があり、どちらも徒歩圏内である。ここはアムステルダムとは一味違う、古都ハーグを存分に楽しめるホテルと言えよう。



バスルームに設置された個性あるダブルシンクの形状がジャック・ガルスシアの世界を反映している



付帯した専用テラスからハーグの街並みを見渡せる